

JET 活躍の現場から



北海道鹿追町企画財政課

交換留学を通じた姉妹都市交流

2020年度から実施される新学習指導要領で小学校での英語が教科化される中、いち早く2003年度から小学校での英語教育を導入した鹿追町では、英語教育・国際交流事業を積極的に進める方策の一つとして、JETプログラムのCIR（国際交流員）を2016年度より活用しています。

鹿追町の国際交流事業は、1985年のカナダ・ストニープレイン町（以下、「ス町」と）との姉妹都市提携調印以降30年以上にわたる交流が現在も続けられています。

交流事業の中核となる北海道鹿追高等学校短期交換留学派遣事業の前身となる町内中高生代表による派遣事業が始まったのは、1987年度でした。以降、1997年には高校1年生全員が参加し、約2週間のホームステイを体験する現在の派遣体制になり、これまで約1,700人が短期留学を経験しています。また1988年度には、ス町からの留学生・友好訪問団の受入事業が始まり、これまで約400人が来町し、延べ311世帯が受入家庭として訪問団との交流の輪を広げています。

JET 任用により英語教育・国際交流の更なる推進へ

これまで鹿追町では、英語教育・国際交流事業の充実を図るため、1991年度にス町出身者をAET（英語指導助手）として採用し、さらに1996年度からは、AET2人体制による町内中学校・高等学校での英語教育を進めています。その後、2006年度からはAETとJETプログラムのALT（外国語指導助手）を各1名体制とし、子どもたちの英会話能力の向上に貢献しています。

こうしたAET・ALTの活用に加え、更なる英語教育・国際交流事業の充実を目指し、2016年度からはCIRが地域で奮闘しています。

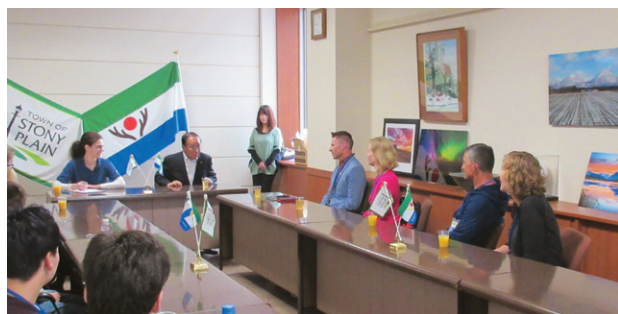
鹿追町では、CIRは国際交流担当の企画部門に所属し、ス町訪問団受入事業や鹿追高校生派遣事業、隔年実施の鹿追町友好訪問団派遣事業において、訪問日程の調整、

訪問団員や受入家庭の情報収集など、ス町との連絡調整や訪問時の通訳を担当しています。そして、2015年度から新たに始まった両町相互住民長期滞在体験事業では、ス町からの長期滞在参加者に対する町内での活動や日常生活へのサポートも担当しています。

また、外国人観光客向けの観光や美術館パンフレットの英語翻訳、地域高齢者への英会話講座の実施など、観光や福祉、教育と幅広く活動しており、英語教育・国際交流の地域住民への更なる理解を深めるため、CIRには今後も一層の活躍が期待されています。



交流事業の中核となる鹿追高等学校のカナダ短期留学



ス町訪問団来町の際に通訳を担当（奥の左側がCIRのアジズさん）



地域老人会を巡回し、異文化紹介や英会話講座を開催